

特集

# 男性介護者が生きやすい社会へ

津止正敏さん

(立命館大学 産業社会学部 現代社会学科教授)

西東京市男女平等参画情報誌

## パリテ

2016.2  
Vol.16



### contents

- p5 パリテ INFORMATION 「女性と子どものための防災ヒント」
- p6 パリテだより 平成 27 年度事業報告
- p7 パリテ・ライブラリー  
ステキに男女平等参画！ in 西東京  
「女性の活躍」編 「初心を忘れず 今日も一日安全運転で！」
- p8 西東京市男女平等推進センター「パリテ」  
登録団体紹介  
「NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ ちろりん村」

西東京市男女平等推進センター  
パリテ

**男女** 平等参画社会は、男女が共に  
様々な分野で活躍できる社会です。  
仕事も生活も楽しめる、  
そんなライフスタイルについて  
考えてみませんか。

# 男性介護者が生きやすい社会へ

京都市社会福祉協議会で約20年地域福祉を担当し、多くの介護者と接する中で、「男性介護者の抱える問題は社会問題だ」との認識を持った津止正敏さん。01年に大学教授となると男性介護者問題を本格的に研究。その一方で、09年、「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」(以下「男性介護ネット」)を立ち上げ、事務局長として支援活動をされている津止さんに、男性介護者の置かれている実情等を伺いました。

## 男性介護者の置かれている厳しい現状

### ◆急増する男性介護者

男性介護者は急増しています。介護について初の全国調査が行われた68年当時、介護者の大半は「女性」でしたが、介護保険制度が始まった直後の'02・'03年には4人に1人が、今ではもう3人に1人が「男性」です。続柄をみても、68年当時は半数が「嫁」、4分の1が「妻」、6分の1が「娘」という順でしたが、近年の家族機能の変化や女性の社会進出などから今や女性だけで介護が担える状態をはるかに超え、「息子」や「夫」が多くなっています(図表1)。

これは単に女性介護者の比率が減って男性介護者が増えたということではなく、とにかくその場に居合わせた者が性差なしに介護者の役割を担わざるを得ないという状況が今の介護環境の実態です。

### ◆ままならない家事

男性介護者の大半は、「こんなはずではなかった」と戸惑いながらも「でも自分がやるしかないのだ」と、時代や社会から排除されたような閉塞的な介護環境の中で様々な問題を抱えながら生活しています。私たちの調査でも、「家で『こーい

一杯すら淹れたことがなかったのに、介護者となった途端に介護のみならず、家事全般をこなさなければならなくなった」という回答がありました。炊事、掃除、洗濯、介護用品等の買い出し、金銭管理等々…。今まで親や妻に任せっ切りにしていた男性からは、

## 男性介護者の「孤立化」をなくせ

### ◆男性介護者の特徴

- ①真面目すぎる。介護を自分の責任と感じ、手抜きもせず「こつこつ」と最後までやり遂げようとする。
- ②成果を出そうとする。介護を仕事のようにすること、己の力で治そう・よくしようとする。
- ③ SOSを出すのがヘタ。周りの人が心配して「大丈夫？」と聞いても「大丈夫です」と言って頑張ってしまう。

こうした姿は、社会が推奨してきた「仕事一筋」という典型的な男性モデルです。でも介護とはむしろ、若い衰えていく家族に寄り添うということ。育児や家事などを同時にこなしてきた女性は、いい加減(ほどよい)加減を知っています。男性は介護者になったからといって、今までの生き方をすぐに切り換えられないのが実情です。

### ◆介護をもっとオープンに

男性介護者は、医師や学者など、権威があると思われる人からの話には頼る一方で、自分の経験(介護)を絶対視し、正しいと思込んで最後まで自分一人の力でやり遂げようとする傾向も強くあります。

そうした男性介護者にとってまず必要なのは、自分の介護を人に話してみることでしょう。そし

「家事なんて女・子どもの仕事とバカにしていたが、こんなに大変だとは思わなかった」「これからは返しです」などの声が聞かれます。しかし、夫婦二人暮らしの老老介護や仕事と介護を両立する人などにとっては、介護保険が使える入浴や排泄の介助などよりも、むしろ炊事、掃除、洗濯、買物など不慣れな家事の負担が重くのしかかっています。

### ◆深刻な介護離職

さらに、仕事介護離職の問題も深刻です。とくに40・50代の、職場では基幹的立場で家族がいればローンや教育費を抱える大黒柱的存在である男性にとって、介護で働けなくなってしまうと、当然、経済的な問題が生じてくると同時に、自分たちの将来の生活基盤をも失うことにもつながってしまいます。

親の介護を一人で担う男性介護者がやむなく離職し、生活保護の申請も受理されず、経済的にも精神的にも追い詰められてしまつていづケースが増えてきています。「仕事と介護の両立」は、いま最も大きな問題の一つなのです。

### ◆自ら孤立化を深める男性介護者

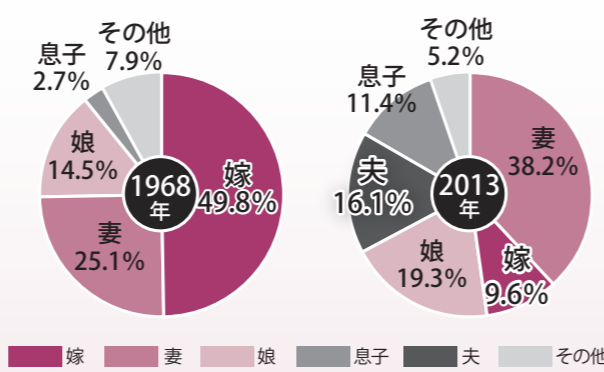
男性介護者には自ら抱え込んで

【参考資料】働きながら介護している人 290 万人

		単位：万人 (千人以下は切捨て)							
		総数	40歳未満	40～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
有業者総数 (1)	有業者数 (2)	64,420	24,601	14,640	6,363	6,141	6,120	3,201	3,352
	介護している	2,910	319	534	515	619	546	213	160
男女別	男性	1,309	142	216	197	276	277	113	85
	女性	1,601	176	317	318	343	269	99	75
(2) ÷ (1)		4.5%	1.3%	3.6%	8.1%	10.1%	8.9%	6.7%	4.8%

引用：平成24年就業構造基本調査(総務省)

図表1 同居の主たる介護者の続柄



参考資料：全国社会福祉協議会 1968年調査資料から作成 総務省「2013年 国民生活基礎調査」から作成

**Profile**  
 津止 正敏 (TSUDOME MASATOSHI)  
 立命館大学 産業社会学部 現代社会学科教授  
 1953年/鹿児島県生まれ。立命館大学大学院社会学研究科修士課程修了。1982～2001年/京都市社会福祉協議会に勤務(地域福祉部長、ボランティア情報センター長等を務める)2001年/立命館大学産業社会学部教授。09年3月/「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」を発足させ事務局長。著書に、「男の介護 そして、ケアメンになる一初めの一歩ー」「しあわせの社会運動ー人がささあうということー」「ケアメンを生きるー男性介護者100万人へのエールー」など多数。



て、他の男性の介護体験に耳を傾けることです。男性介護者の会はこうした相互性を何より大切にしています。

たとえば、これはある介護者の会での話ですが、80歳を超え妻を介護している男性が、母親を介護する50代の男性を見て「若いのに、

地域社会はとう向き合い・とう支えるのか

◆直に交流できる場を増やす  
介護者の会や集いのような、男性介護者同士が直接交流して介護体験を語り合える場が、地域にもつて必要です。

とくへに「自分だけが…」と、自分の介護世界にこもりがちな男性にとつては、身近にそうした場があると知るだけで、「つらいのは自分ひとりだけではない」と思え、勇気もわいてきます。実際に会や集いに参加し、自分と同じ介護者から様々な実体験を見聞すると、専門家からの一般的なアドバイスとは違った現実味のあるアイデアも得られます。

そうした場合は全国で現在100か所

えらい」とほめ称え、対して50代の男性は、自分の父親ほどの年齢のその男性のことを「あの年代になっても妻の介護に一所懸命で、すごいと非常に尊敬していた。こういうリスペクトし合える関係を築くことも自尊心を支えるきっかけになるのではないだろうか。

を超えましたが、それでもまだまだ足りていません。全国1741の市区町村ごとに少なくとも一つは必要です。

◆新しい価値の発見

「男性介護ネット」などを通じて私たちが伝えている、介護はつらく大変だという現実を、多くの人が理解していると思います。でも、「つらい」とばかり言っていることも男性介護者の多くが語っていることなのです。それは、健康なときには理解できなかった生活の価値あるいは、関係の値打ちのよつなものなのです。

たとえば妻を介護する男性の体

談にあるように、「自分が作った美味しくもない食事でも、妻が『美味しいね』ありがとつ」と言ってくれた。それだけでもう、その口のつらいつなが全部消え去ってしまった。

介護するとは、それまで気づかなかった、新しい価値を発見するきっかけでもあります。



◆希望を感じさせるサポート

人生の始まりと終わりに、ケアをしたり、ケアされたりする時間が必ずあります。そこで重要なのは、それをつらく大変だからと排除するのではなく、そうした時間をどう生きていくのか、どうサポートできるのかだと思つたのです。

ある男性介護者が語つたことです。買物に行き、八百屋の前を通つたら、妻が大好きだった果物の香りがしたので思わず買って帰つたのですが、妻は固形物など食べられない状況ではなかつたのです。がつ

女性と子ども  
のための  
防災ヒント

防災意識の高まりにより、今や多くの家庭が様々な防災グッズを非常用袋などに入れ、もしもの時に備えていると思います。しかし、避難先で生活することになった場合、女性や子どもにとって必要なものはその中に入っていないことが多い。

ライフラインが止まった状況やプライベートな空間を確保しにくい避難所では、とくに女性や小さな子どもは不安や緊張を感じる以外に、ストレスとなる場面も少なくないはず。そんなとき、袋の隙き間に入れておくような様々な用途に重宝するモノがあります。「意外と知られていないけれども、使い次第では防災アイテムとしても役に立つ」モノを紹介しましょう。

- 帽子代わりにすると、洗髪できない頭の臭いも気にならない
- マスク(防塵対策)
- 包帯・止血帯・三角巾など(救急用品)
- 風呂敷代わりに
- フィルター(ごみなどの浮遊物をこす)
- 旗(救護を求めるときの目印などに)

これで臭いも気にならない...



バンダナ

シュシュ(髪留め)



- 髪を結う(長い間髪を洗えないときにはとくに有効)
- ゴムひも代わりに(袋の口をしぼったり、物を一つに束ねる)

女性用ポーチに下着や生理用品などと一緒に入れておくと便利です!

パンティーライナー



下着を洗えない・替えがないときの不安を解消

ティーツリーオイル



- 殺菌効果のあるうがい薬(コップの水に1滴垂らして使う\*)
- 除菌シート(少量の原液を水で薄め、布やティッシュペーパーに含ませて使う)
- アロマテラピー効果(マスクの内側に原液を1滴垂らして使えば、清涼な香りで気分もリラックス)

※殺菌効果が期待できるのは、純度100%の正規品のみ

更衣室がなくてもこれなら着替えられる!

大きめのストール



- 防寒・紫外線対策に
- 野外で用を足すときや、着替えるときの目隠しに

子ども用の非常用リュック



背負って走れる程度の重さに調整してあげよう!

食料、水、笛、お菓子のほか、家族写真も。写真の裏には氏名・住所・連絡先など必要事項を書いておけば、親とはぐれても安心!



『ケアメンを生きる』  
著者：津止正敏  
出版：クリエイツかもがわ

かりしていたそのとき、隣にいたケアマネジャーの方から、「若い頃に二人で一緒にその果物を食べた楽しい思い出があったんですね。そんな思い出があるって素敵ですね」と言葉かけられ、彼は少し救われたような気持ちになったそうです。

自ら介護体験記を書いたりして、往時を振り返ることで、希望が、未来が見えてくる。それが人生の後半期を意味あるものにしていくのだとも思います。

日本には現在、要介護・要支援認定者が約615万人います。その人々には配偶者や子ども、兄弟姉妹、親戚がいるでしょう。また、友だち、知り合い、職場の同僚などを含めると、介護に無関係な人などほぼいない時代になってきているのです。

「介護はみんなのもの」と、新しい社会、未来を創っていくための投資と考えられれば、心の癒やしにもなっていくのではないだろうか。

このコーナーでは、男女平等参画をはじめとする様々なテーマの本を紹介します。  
男女平等推進センター「パリティ」の図書コーナーで貸し出していますので、ぜひご利用ください。



国際ボランティア 星野昌子  
一こんな生き方がしたい  
(理論社)  
著者：杉山由美子

「自分の子の養育を放棄して得た第二の人生。誇らしい気分にはなれないけれど、選択は間違っていない。今も日本では家庭を守る女性が男性には好まれるけれど、それに合わない女性は、(青年海外)協力隊で世界に飛び出すのも一つの道」と語る星野昌子さん(元敬愛大学教授)は現在83歳のNGO活動家。あの時代、すでに生き方の多様性を求め行動していた彼女について、16年前に書かれた本です。



近現代日本の家族形成と出生児数  
子どもの数を決めてきたものは何か  
(明石書店)  
著者：石崎昇子

夫婦が将来設計をもって子を生し、一人前に育てるといふ家族像が定着したのは1960年代。しかし今、非正規雇用化、低賃金化によって、このシステムの基礎が崩れつつある。本書は、明治期からの出生児数の変動と、時代ごとの社会的背景を実例を挙げて検証。安心して子育てできる社会の構築は、緊急の課題だと訴える。



シンドロームカクテル  
Women's  
(WAVE出版)  
著者：水野谷悦子

女性の悩みごとを聞いて、今を生きる女性の生き方を分析。多くの情報から仕事、生活、結婚、ファッションなどを選択し、厳しい環境の中を生き抜く女性たち。集団意識の中で流行から逸脱しないことで安心感を覚え、本来の自分を見つけれずにいる女性たち。豊かな時代の中で本当の幸せとは何か。ありのままの自分と向き合って「私は私を愛しています」と言えるだろうか。

# パリティだより

## 平成27年度 事業報告

「パリティだより」では、平成27年度に男女平等推進センターが実施した事業の報告をします。

### 週間事業

### 防災講演会

6/27 大沢真知子さんが語る「女性が活躍するための手引き」

【講師】大沢真知子さん  
女性が活躍するため、日本の社会の問題を知る。特に女性の再就職に迫る。

11/21 他人事ではない、災害時のDV問題を考える

【講師】八幡悦子さん  
災害時、女性への性暴力やDV被害をどう防げるか。

7/3 減災と男女平等参画

【講師】浅野幸子さん  
防災市民組織など地域活動のあり方を考える(危機管理室共催)。



▲大沢先生の話真剣に聞き入る参加者

### 連続講座《沿線3市男女共同参画連携事業》

6/18-7/2 2-16

【講師】セブロス

【講師】和田恵明さん  
東京都市長会及び東京都町村会の多摩・島しょ広域連携活動助成事業を利用した事業の西東京市分。

8/23

【講師】滝村雅晴さん  
子どもとの「コミュニケーション」を図りながら楽しく料理する(こ)より、料理(家事)の楽しさ大切さを学ぶ。

9/13

【講師】小崎恭弘さん  
ママならではの子育て法を楽しく、分かります。

【講師】和田恵明さん  
東京都市長会及び東京都町村会の多摩・島しょ広域連携活動助成事業を利用した事業の西東京市分。



▲みんなで作った料理、美味しいね

### 連続講座

7/8・15・24・29

【講師】奥田明子さん・池田干城さん  
市内農業を知る(7月8日農家訪問、15日料理教室)

9/3・10・17・24・10/1・8

【講師】吉田朋子さん・岡田雅子さん  
カナタから届いた子育て学習プログラムを体験する。

10/6・29

【講師】齋藤美樹さん  
花の「ソーシング」へようこそ「リジュアータ」へ



▲市内生産者を訪ねて

### 単発講座

10/31

【講師】三島和夫さん  
8時間睡眠のウソ  
新しい睡眠の常識と男女平等参画を考える。

11/12

【講師】NPO法人Rebirth  
今を知る性的マイノリティへの理解  
多様な性・多様な生き方を理解する。

12/2

【講師】高橋かなさん  
女性のための「しごと準備講座」わたしのペースで就活レッスン  
「いきいきとした表情づくりで印象力アップ」

3/8

【講師】高橋かなさん  
女性のための「しごと準備講座」わたしのペースで就活レッスン  
「いきいきとした表情づくりで印象力アップ」

12/9

【講師】菅野かよさん  
女性のための「しごと準備講座」わたしのペースで就活レッスン  
「いきいきとした表情づくりで印象力アップ」

2/1~12

【講師】サヘル・ローズさん  
出会いこそ、生きる力  
差別やいじめなどの人権問題や、戦争の悲惨な実態を伝え、平和の尊さを訴える。



▲カラーといってもいろいろ



▲眠りはコントロールできる

### No.4

## 初心を忘れず 今日も一日安全運転で！

ステキに  
男女平等参画!  
「女性の活躍」編



▶小柄な体で大型バスを運転する田口さん

「昔から乗り物が好きだった」という田口真理子さん。20~30代のころは建設業界でミキサー車を運転、40代で西武バスに運転士として転職し、今や大型車両運転歴10年超のベテランだ。彼女が所属する滝山営業所では現在、田口さんを含め6人の女性が運転士として活躍している。路線バスの運転士は、運転以外にも、運賃収受、車内アナウンス、接客等々のすべてを一人でこなさなければならず、周囲に気を配れる能力も必要。「渋滞などで時刻表どおりに到着できない場合でも気持ちよく乗ってもらえるように、日ごろからお客様への声がけは欠かせない」と話す田口さん。乗客から「お疲れさま」「安心して乗れたよ」と声をかけられたり、中には折り鶴や座布団を作ってプレゼントしてくれる常連客もいるという。こうした温かいふれ合いが、彼女の日々の生きがいにつながっている。

勤務はシフト制で、プライベートも調整しやすい。今は子育ても一段落し、休日には趣味のゴルフをはじめ、会社の仲間との山登りや釣り、オートバイツーリングなどを楽しんだりしている。

今後の目標を聞くと、「初心を忘れることなく定年まで安全運転に努めたい」と。その笑顔は、乗客への思いやりと責任感にあふれていた。



◀西東京市を走る「はなバス」にも乗務している。ブルーの車体デザインはお気に入り

# 西東京市男女平等推進センター「パリテ」登録団体紹介

## NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ ちろりん村

「ちろりん村」には、子どもが大好きで個性的な26人の輝くメンバーがいます。そして皆がそれぞれの力を発揮して、生活クラブ保育園「ぼむ」の保育・給食調理や、地域の子育てを支援しています。

「ちろりん村」は今から15年前に、生活クラブの組合員が「子育てを応援するグループを作ろう」と集まり生まれました。その頃から0～3歳児とその保護者が集って楽しむ企画を開催していました。2007年に保育園「ぼむ」が新設され、私たちのボランティア活動を事業化することを決意し、「ワーカーズ・コレクティブ」という協同労働の形を選びました。これは普通のお勤めとは異なり、事業の運営も労働も出資も話し合っ決めて、「全員が運営者」という働き方です。

子育ては一人ではできないし、最初からうまくいかないことばかり。だからこそ支え合い、助け合ってその時期を過ごした経験が事業の根底にはあります。「人と人」をつなぎ、顔の見える関係を大切に育み、一人でできないことを人に頼ったり、地域の課題に取り組んだり。集い・話し・好きなことを見つけ・新しいことを始める。そんな親子が「ちろりん村」に集まります。利用者は現在、年間のべ9,000人にのびります。

ホームページのイベントカレンダーをご覧ください。参加し

てみたいと思ったら、ぜひ申し込んでくださいね。

### 【主なメニュー】

- ① 仲間づくりや情報交換ができる「ミトンの会」「ぼむぼむひろば」
- ② 参加者主体で学び合う「ノーパディズ・パーフェクト」「BPプログラム」
- ③ 親子で楽しむ「産前産後やアラフォーママのエクササイズ」「リトミック」「親子コンサート」「積み木」「巨大迷路」
- ④ 食べることを大切に「離乳食教室」「子ども料理体験教室」
- ⑤ 家庭に届ける子育て支援「ホームスタート」
- ⑥ 人材育成「訪問ボランティア養成講座」「食育サポーター」

「ホームスタート」は今年で3年目に入り、年々利用者が増えています。訪問するボランティアさんは30人。皆さんからの利用申し込みをお待ちしています♪



▲リトミックや積み木、コンサートなど親子企画(左)。地域の子育てや食育を支える人材の育成(中央)。生活クラブの食材を使った、子どもたちに人気の給食(右)

「生活クラブ保育園ぼむ内」NPO法人 ワーカーズ・コレクティブ ちろりん村

お問い合わせ ☎/FAX : 042-425-0788  
E-mail : chiorinmura@mbn.nifty.com  
URL : http://npochiorinmura.jimdo.com/

## 団体登録

(男女平等推進係)

男女平等参画社会の実現をめざして活動するグループを支援します。  
団体登録をしていただくと、次のとおり施設をご利用いただけます。

### 団体連絡箱

#### 活動室

グループ活動や、活動の際の保育室としてご利用いただけます。(無料)

- 登録団体は2カ月前(その他の方は1カ月前)から予約申し込みができます。
- 利用時間 午前9時～午後10時

グループで作成したチラシなどを配布できるロッカーです。申請をしていただくと、ご利用いただけます。

# Parite

パリテ  
2016.2  
Vol.16

### 愛称「パリテ」とは・・・

フランス語で“平等な”という意味です。

- ◆企画・編集◆ 男女平等推進センター企画運営委員会
- ◆発行◆ 西東京市生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課  
〒202-0005  
西東京市住吉町6-15-6 住吉会館内  
☎042-439-0075
- ◆企画運営委員会委員◆ 加藤真理、齋藤博、齋藤三枝子、白井香澄、田崎吉則、田村悠、本橋里実、吉田朋子
- ◆制作◆ 株式会社ドゥ・アーバン

▶ご意見、ご感想をお寄せください。情報誌「パリテ」は西東京市のホームページからもご覧いただけます。  
<http://www.city.nishitokyo.lg.jp>

### Access

### 編集後記

自己の確立って大変なこと。他人からの何気ない一言で精神的に落ち込んだり、悩むことがある。一人ひとり違うことは当然のことなのに。そんな時、セルフイメージという文字を目にした。そう！私は私。これが私！と胸を張れたらと思う。  
加藤真理

昨年11月に都内で同性パートナーシップ証明書や宣誓書の受領書発行の取り組みが始まりました。多様性のある社会実現への第一歩ですが、当事者の方々の気持ちは様々とも。周囲は理解しつつもそっと見守りたいものです。  
白井香澄

SOSをだす自分はダメと考えるしまう男性介護者「ケアメン」の気持ちがなんとなくわかります。介護しながらも、たまには同じ境遇の人たちと話して情報共有できる場がほしい、そう思うのは子育て中の私もそうだったからです。  
田村悠

今回の特集のケアメンの話は、同じ男性として大変響くお話でした。家事、育児、介護、とかく、きめ細かく、完璧にやることを求められがちな今の社会で、こういう作業に慣れていない男性陣の苦悩は深いと思います。  
田崎吉則